



東北大学 災害科学国際研究所



東北魂 現場の皆さんとともに 思いを行動に

東北大学災害科学国際研究所 所長 今村 文彦



災害科学国際研究所（IRIDeS: International Research Institute of Disaster Science）は、東日本大震災の約1年後に東北大学で70年ぶりに発足した一番新しい研究所です。

2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震が発生し、それに伴う巨大津波により、東日本は大きな打撃を受けました。約2万人が犠牲となり、さらに福島第一原子力発電所の事故により、人類がそれまで経験したことのない広域複合災害「東日本大震災」となりました。

東北大学はそれに先立つ2007年、高い確率で発生が予想されていた宮城県沖地震を視野に入れ、学内の文系・理系の災害科学を統合した防災科学研究拠点を結成していましたが、東日本大震災の実態は予想をはるかに超えるものであり、十分対応できませんでした。東北大学は、その教訓から学び、大災害を二度と繰り返さないことを使命に、2012年4月同拠点を大幅に拡充し災害科学国際研究所（IRIDeS）を発足させたのです。

IRIDeSでは、文学・理学・工学・医学などの研究者約100名が7部門37分野で活動し、災害科学の深化および実践的防災学の構築にあたっています。今日に至るまで、東日本大震災の被害把握、巨大地震・津波メカニズムの解明、震災アーカイブの構築など、着実な成果を挙げてまいりました。また、国内外で産・官・学・民連携に力を入れ、東北被災地の復興とともに世界の災害軽減を目指しています。

社会の震災への関心や取り組みが変化しつつある中で、「東北魂 現場の皆さんとともに 思いを行動に」を掲げ、既成概念に捉われない斬新な取り組みを打ち出していきます。各研究分野の融合を促進し、地域からのニーズを把握して、より実践的に社会に貢献するため「プロジェクトエリア・ユニット制」も開始しました。開かれた研究所とすべく、一般公開フォーラムやIRIDeS見学会も定期開催しています。今後も皆さまのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

沿革

- | | |
|----------|--|
| 2012年 4月 | 東北大学 災害科学国際研究所（IRIDeS）設立（初代所長 平川 新 教授） |
| 2013年 4月 | 気仙沼サテライトオフィス設置 |
| 2014年 4月 | 第2代所長 今村 文彦 教授 就任 |
| 2014年11月 | IRIDeS棟 落成式 |
| 2015年 3月 | 仙台で第3回国連防災世界会議開催 仙台防災枠組 2015-2030年の防災指針となる |
| 2015年 4月 | 国連開発計画（UNDP）と共同で災害統計グローバルセンター発足 |
| 2016年 4月 | プロジェクトエリア・ユニット制開始 |
| 2017年より | 世界防災フォーラムを隔年で開催予定 |

研究所の構成

災害リスク研究部門

震災の被害と教訓に基づき減災社会の構築を目指す

- 地域地震災害研究分野
- 津波工学研究分野
- 災害ポテンシャル研究分野
- 広域被害把握研究分野
- 最適減災技術研究分野
- 低頻度リスク評価研究分野
- 国際災害リスク研究分野

地域・都市再生研究部門

安心して暮らせる地域を創るため多様な技術を開発・研究

- 都市再生計画技術分野
- 除染科学研究分野
- 地域安全工学研究分野
- 災害対応ロボティクス研究分野
- 国際防災戦略研究分野

災害医学研究部門

災害時の保健・医療の在り方を多角的に評価し、備えを強化

- 災害医療国際協力学分野
- 災害感染症学分野
- 災害放射線医学分野
- 災害精神医学分野
- 災害産婦人科学分野
- 災害公衆衛生学分野
- 災害医療情報学分野
- 災害口腔科学分野

寄附研究部門

産学連携による研究活動を通じて、
 安心・安全な社会に向けた知見を発信
 地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門

人間・社会対応研究部門

内外の災害の文化・歴史、災害認知、防災・復興方策の研究

- 災害情報認知研究分野
- 被災地支援研究分野
- 歴史資料保存研究分野
- 防災社会システム研究分野
- 防災法制度研究分野
- 災害文化研究分野
- 防災社会国際比較研究分野

災害理学研究部門

災害発生メカニズムを解明しハザード予測に取り組む

- 海底地殻変動研究分野
- 地震ハザード研究分野
- 火山ハザード研究分野
- 地盤災害研究分野
- 気象・海洋災害研究分野
- 宙空災害研究分野
- 国際巨大災害研究分野

情報管理・社会連携部門

災害記録の拡充とともに復興に向けた街づくりを支援

- 災害アーカイブ研究分野
- 災害復興実践学分野
- 社会連携オフィス

緊急調査

IRIDeSIは、災害時に緊急調査を実施し、迅速に知見を社会発信し、災害研究を深めてきました。

- ・フィリピン台風30号・ハイエン（2013）
- ・ネパール・ゴルカ地震（2015）
- ・関東・東北豪雨（2015）
- ・熊本地震（2016）等
 （調査風景写真掲載）



国内・国際連携

IRIDeSの活発な研究と実践は、東北と世界を繋ぎます。

国際連携

- ・2015年3月に仙台市で開催された第3回国連防災世界会議を全面的に支援。
産官学民の連携を推進しつつ、災害に関する研究機関として大きな役割を果たす。
- ・国連開発計画（UNDP）と共同で、災害統計グローバルセンターを発足。「仙台防災枠組」の中でも重要な位置を占める「災害統計」を通じ、世界の防災へ貢献。
- ・米国、英国、ドイツ、インドネシア、フィリピン、台湾をはじめとする各国の学術・研究機関と災害研究を共同推進。
- ・環太平洋大学協会（APRU）におけるマルチハザードプログラムへの参画。



第3回国連防災世界会議



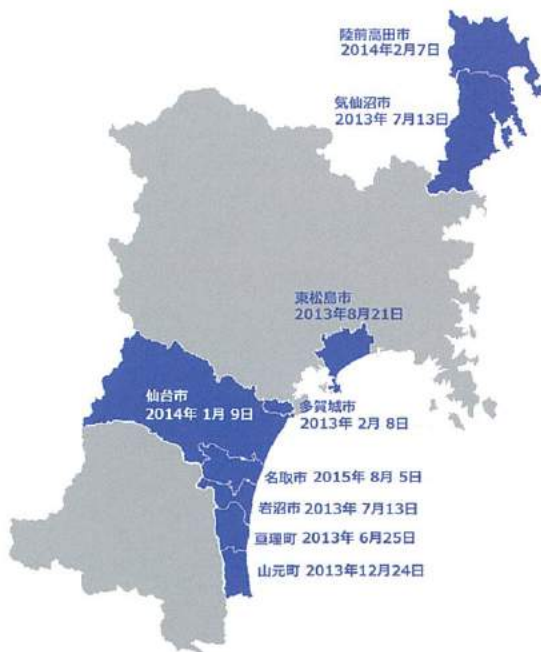
環太平洋大学協会（APRU）巡検



国連開発計画・東北大学災害科学国際研究センター
災害統計グローバルセンターの設置式

国内連携／地域連携

- ・気仙沼分室（通称：気仙沼サテライト）を設置。
- ・東北沿岸の9自治体および福島工業高等専門学校、宮城県多賀城高等学校と包括連携協定を締結。
- ・「生きる力」市民運動化プロジェクト、「みんなの防災手帳」ほか、各地で防災訓練を推進。



連携協定締結自治体と締結日



気仙沼サテライト（海の市 3F）



宮城県多賀城高等学校との連携協定

一般公開イベント

- IRIDeS金曜フォーラム
毎月1回、IRIDeSの最新研究成果を定期的に一般公開で発表しています。
(無料、申込不要)
- IRIDeS見学会
研究所棟内には研究例をご紹介する展示スペースや、日本の研究所としては最大サイズの3Dスクリーンを設置しています。数か月に1度、一般見学会を開催し、研究者による展示解説、今村文彦所長監修3D映画「大津波3.11未来への記憶」(NHKメディアテクノロジー制作)の上映等を実施しています。
(無料、要申込)

所在地 (東北大学 青葉山新キャンパス)



アクセス： 仙台市地下鉄東西線「青葉山」駅から徒歩3分

お問い合わせ

IRIDeS (広報室) 住所： 〒980-0845
仙台市青葉区荒巻字青葉468-1
電話： 022-752-2049
メール： koho-office@irides.tohoku.ac.jp
HP： <http://irides.tohoku.ac.jp/>

金曜フォーラム・見学会の詳細、その他最新情報はホームページをご覧ください。



TOHOKU
UNIVERSITY